大阪市立大学工学部同窓会報　第38号　　2022年12月22日発行

大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3－3－138
TEL 06(6607)8373
FAX 06(6605)2769
発行人　斉藤　寿士

《　目　　次　》

■大阪市立大学工学部同窓会長挨拶 …… 2
■大阪公立大学工学部・工学研究科のご紹介 …… 3
■大阪市立大学工学部各学科の近況 …… 4
■大阪市立大学工学部各学科同窓会の近況
・「大阪公立大学工学部機械工学科同窓会」正式発足の報告 …… 9
・大阪公立大学電気系同窓会の設立と近況 …… 10
・化学バイオ工学科同窓会の近況 …… 11
・建築会は創立60周年を迎えました …… 12
・都市会の近況報告 …… 13
■事務局便り（評議員会報告、新評議員紹介、理事会報告、寄付者一覧） …… 14
■連絡先調査のお願い …… 16

ごあいさつ

大阪市立大学工学部同窓会会長　斉藤　寿士

工学部同窓会員の皆さまには、日頃から同窓会活動に、ご理解・ご協力を頂き感謝いたします。工学部同窓会報38号「同窓会だより」発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

さて、本年４月１日、大阪市立大学（市大）と大阪府立大学（府大）が統合し、「大阪公立大学」が開学しました。新大学は、12学部に、学部学生・大学院生合わせて約１万６千人を有する全国最大の公立大学になりました。工学部においては全12学科、学生数４千名以上の大規模な学部です。

これに伴い両校の同窓会組織である大阪市立大学同窓会（全学同窓会）と大阪府立大学校友会（全学同窓会組織）が合流し、新たに全学同窓会組織「大阪公立大学校友会」が６月誕生しました（ただし、市大全学同窓会、府大校友会も並存します）。

工学系においては、市大・府大工学系同窓会関係者が協議し、大阪公立大学工学部発足に合わせて工学部学科別同窓会を設立する事にしました。このことについて、市大工学部同窓会の「評議員会」（本年２月開催）において、『工学部同窓会は、2022年４月設立予定の新工学部学科別同窓会に対し、現工学部同窓会の目的を承継する団体と認定し支援する』ことが承認され、これに基づき工学部同窓会副会長が中心となって、学科別同窓会設立のために府大学科同窓会関係者と協議しました。その結果、工学部関連の同窓会は、合計10学科同窓会組織（機械工学科、電気系３学科は両大学にあるため合流）に改編します。

市大工学部同窓会関連では、

- ✓ 既に独自同窓会組織で活動している建築学科同窓会「建築会」および、都市学科同窓会「都市会」は各々名称を大阪公立大学に変更し、承継する。
- ✓ 機械工学科は両大学にあるため、合流し新たに「機械工学科同窓会」を設立する。
- ✓ 市大の電子・物理工学科及び電気情報工学科は、新工学部では３学科に再編されるため、府大電気系３学科とともに新たに「電気系同窓会」を設立する。
- ✓ 市大単独である化学バイオ工学科は新たに「化学バイオ工学科同窓会」を設立する。

ことで準備を進め、本年７月までに全ての学科同窓会が誕生しました。

一方、現在の市大工学部同窓会活動では、昨年度は新型コロナの影響で「工学部同窓会の集い」、在校生対象とした「工場見学会」、ホーム・カミング・デー行事の一環として実施してきた「新任・若手教授の講演会」等々主だった活動が中止となりました。

本年度も新型コロナが収束しない現状で、１月以降の会議はすべてリモート会議となり、昨年同様「工場見学会」「新任・若手教授の講演会」は中止の方向です。

「評議員会」はリアル会議を実施できるよう準備をしているところですが、「同窓会の集い」は、飲食が憚れる現状では中止も止むなしと考えています（コロナによる行動制限が緩和されれば実施もあり得ます）。

次に、昨年度に設置しましたワーキンググループ「在り方検討会」についてですが、統合により2025年３月には大多数の市大工学部生が卒業すること、および本年度からは同窓会を運営する収入が全く入らなくなる中で（繰越金等で賄える）、どのように工学部同窓会を存続させるのか（或いは解散するのか）を議論していますが、今すぐ結論が出るテーマではありませんので、今後も継続して審議しています。

また、「各学科同窓会代表で構成する緩やかな連合体としての大阪公立大学工学部同窓会設立」構想を第37号同窓会だよりで紹介しましたが、各学科同窓会の事情や、財政的な裏付け等々、解決しなければならない課題がありました。そこで、当面の措置として、学科同窓会間の連絡調整や校友会との窓口機能を有する「大阪公立大学工学部学科同窓会連絡会」の設立を市大・府大工学系同窓会代表間で合意しました。なお、本連絡会の具体的な機能・役割等については今後協議していきます。

新型コロナが未だ先が見えない中、今年度は大学の統合に付随して、大阪公立大学校友会設立のための会議、新学科同窓会設立のための調整や会議、工学部同窓会役員会や理事会等、従来以上の会議・調整が入り、本来の工学部同窓会活動が十分に審議されなかった点があったことが大きな反省点です。

最後に、大阪公立大学が規模・内容ともに今以上充実した素晴らしい大学になることを期待しております。が、私にとっては半世紀以上も慣れ親しんできた「大阪市立大学、及び工学部」という名があと数年でなくなると思うと非常に残念で複雑な気持ちです。大阪公立大学工学部が、市大・府大の優秀な教授陣や先生方が結集し世界に誇る研究成果を挙げていただくことと、優秀な学生が一人でも多く入学されることを祈念して、挨拶に代えます。

大阪公立大学工学部・工学研究科のご紹介

大阪公立大学工学部長・工学研究科長
大阪市立大学工学部長・研究科長（兼任）
大阪府立大学工学域長・工学研究科長（兼任）　綿野　　哲

大阪市立大学工学部同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。ご存じのように、本年４月に大阪市立大学と大阪府立大学が統合され、新たに大阪公立大学が誕生しました。大学統合にともない、大阪市立大学工学部と大阪府立大学工学域も統合され、新しい工学部が誕生しました。小職は、大阪公立大学の工学部長ならびに工学研究科長に任命され、着任後すでに約半年が経過しております。統合前に十分な準備をしていたつもりでしたが、歴史と文化の異なる２大学の統合ですので、規定やルールの一本化に難航し、日々対応に追われております。小職は、大阪市立大学工学部・同窓生の皆様とはほとんど面識がありませんので、この場をお借りして、簡単に自己紹介をさせていただきます。

小職は大阪府立大学の工学研究科を修了後、直ちに助手に採用され、その後、海外の大学での勤務を経て、2005年より教授として教育・研究に従事しております。2019年より工学域長、2021年より工学研究科長を拝命し、統合に際しては、新大学工学部の準備委員会委員長に任命されております。専門は粉体工学・化学工学で、機能性複合材料の設計などに従事しております。学生時代は格闘技に没頭し、日本拳法５段の段位をいただいております。

さて、同窓生の皆様におかれましては、大阪公立大学工学部の活動に関してご興味がおありだと思います。以下では、工学部の構成や活動に関して簡単にご紹介させていただきます。

本年４月に開学した大阪公立大学は16,000人の学生を擁し、全国の国公立大学では東大、阪大に次ぐ３番目の規模となります。工学部の入学定員は全学の１/４以上を占め、紛れもなく学内最大の部局となっております。工学部の構成は、下記に示すように、市大工学部の６学科と府大工学域の10課程が統合され12学科体制を取っております。また、大学院は、市大工学研究科の４専攻６分野と府大工学研究の６専攻９分野が統合され、７専攻12分野の構成となっております。

約270名の教員を擁する新しい工学部・工学研究科の特徴をまとめると以下のようになります。

・工学の全領域をカバーする学科体制をとることで、工学に関わるあらゆる課題に対応
・医学部との連携（医工連携）をはじめ、異業種との連携や産学官連携を積極的に推進
・多彩な副専攻を整備（植物工場学、創薬科学）

大阪府立大学

工学域	
機械系学類	航空宇宙工学課程
	海洋システム工学課程
	機械工学課程
電気電子系学類	情報工学課程
	数理システム課程
	電気電子システム課程
	電子物理工学課程
物質化学系学類	応用化学課程
	化学工学課程
	マテリアル工学課程

大阪公立大学

工学部
航空宇宙工学科
海洋システム工学科
機械工学科
建築学科
都市学科
電子物理工学科
情報工学科
電気電子システム工学科
応用化学科
化学工学科
マテリアル工学科
化学バイオ工学科

大阪市立大学

工学部
機械工学科
電子・物理工学科
電気情報工学科
建築学科
都市学科
化学バイオ工学科

大阪府立大学

工学研究科
航空宇宙海洋系専攻
機械系専攻
電子・数物系専攻
電気・情報系専攻
物質・化学系専攻
量子放射線専攻

大阪公立大学

工学研究科	
航空宇宙海洋系専攻	航空宇宙工学分野
	海洋システム工学分野
都市系専攻	建築学分野
	都市学分野
機械系専攻	機械工学分野
電子物理系専攻	電子物理工学分野
電気電子系専攻	電気電子システム工学分野
物質化学生命系専攻	応用化学分野
	マテリアル工学分野
	化学工学分野
	化学バイオ工学分野
量子放射線専攻	量子放射線工学分野

大阪市立大学

工学研究科
機械物理系専攻
電気情報系専攻
化学生物系専攻
都市系専攻

・国際的な学術交流を促進
・アントレプレナーシップなど多彩な人材育成プログラムを整備

これまで長年にわたり蓄積してきた、両大学の文化や歴史を尊重しながらも、新時代に適用でき、世界の研究をリードできる新しい工学を目指して、今後も活動を積極的に進めていく所存です。

最後にキャンパスプランに関して簡単にご説明いたします。現在は、旧市大の杉本キャンパスと旧府大の中百舌鳥キャンパスに分かれて教育・研究が実施されていますが、いずれは中百舌鳥キャンパスに集約される予定です。すでに、中百舌鳥キャンパスには工学新棟が建設中であり、2023年度末に杉本キャンパスに所在する電子物理工学科、機械工学科および電気情報工学科の３学科が工学新棟に移転します。さらに、2026年度末には、化学バイオ工学科、建築学科および都市学科が中百舌鳥キャンパスに移転予定です。これと並行して、2025年度に竣工予定の森之宮キャンパスでは、入学後の1,2年生の基幹教育が実施される予定です。新しい工学の整備が完了するまで、まだしばらく時間がかかりますが、着々と新大学への移行が進められています。

以上、新しい工学の概要を簡単にご説明させて頂きました。今後は、両大学統合のシナジー効果を最大に発揮できるよう積極的に活動を進めていく所存です。引き続き、卒業生の皆様からのご支援をお願い申し上げます。

大阪市立大学工学部各学科の近況

機械工学科の近況

機械工学科　学科長
金崎　順一

卒業生の皆様には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。また、平素より本学科・専攻に格段のご支援をいただき、感謝申し上げます。

まず、当学科・専攻を卒業した学生の進路状況についてご報告いたします。大阪市立大学工学部機械工学科を令和３年度末に50名が卒業し、内38名が大阪公立大学大学院に進学いたしました。また、機械物理系専攻においては、令和４年３月末に39名が、さらに、本年９月に１名が博士前期課程を修了し、内１名は大阪公立大学大学院博士後期課程に進学いたしました。コロナ禍の影響が残る中ではありますが、企業への就職を希望する学生も順調に就職することができました。これは、ひとえに卒業生の皆様が様々な分野においてご活躍いただいている賜物と感謝申し上げます。

次に教員の異動についてご報告いたします。本学科の教育・研究に長年ご尽力くださり、環境熱工学分野において多大な功績を挙げられた西村伸也教授が、令和４年３月をもって定年退職されました。先生のご指導に感謝申し上げると共に、今後のご健勝をお祈り申し上げます。また、西村先生のご退職に伴い、流体工学分野において准教授を務めておられた脇本辰郎先生が、本年４月に環境熱工学研究グループの教授に昇格されました。その他教員の異動につきましては、令和４年１月に、桑原卓哉先生が材料先進工学研究分野の講師としてご着任されました。桑原先生は、文部科学省が推進する卓越研究員事業の卓越研究員も兼務されております。

既にご存じのように、令和４年４月に旧大阪市立大学と旧大阪府立大学が統合し、新たに大阪公立大学（Osaka Metropolitan University）として船出いたしました。２大学の統合により、１学域・11学部、大学院15研究科にわたる幅広い学問領域を擁し、学生数約16,000人におよぶ日本最大規模の公立大学となりました。当学科については、２大学の機械工学科が統合し、新たに大阪公立大学の機械工学科として、今年度127名の新入生を迎え入れました。大学院は、統合により機械系専攻へと名称を変更し、前期博士課程に103名の学生を迎えました。統合後の教員体制については、教授21名・准教授13名・講師７名・助教６名の構成となり、教員と学生一丸となって日々の教育・研究を推進しております。当学科・専攻を含めて、当大学工学部及び大学院工学研究科における教育研究については、大学ホームページの他、YouTubeの大阪公立大学工学部チャンネルにおいても閲覧することができます。お時間がございましたら是非ご覧ください。

大阪公立大学工学部は、今後中百舌鳥キャンパスに集約されることが決まっております。現在、キャンパス構内に新研究棟を建設中であり、旧市大機械工学科の教員は、令和５年度末に中百舌鳥キャンパスに移動する予定です。来年度末までは、杉本キャンパスにて研究教育を実施いたしておりますので、お近くにお越しの際には、懐かしい学舎へぜひお立ち寄りください。

末筆ながら、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げますと共に、本学科の研究・教育に対して、今後も倍旧のご懇情を賜りますようお願い申し上げます。

電子・物理工学科の近況

電子・物理工学科　学科長
重川　直輝

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。所謂「コロナ禍」が始まってもうすぐ３年となり、コロナとの共存はすっかり日常と化した感があります。私たちが担当する授業科目、研究室活動もほぼコロナ前の状態に戻りました。

学生の進路状況を報告いたします。2022年３月に45名が電子・物理工学科を卒業しました。内９名が就職、２名が他大学大学院に進学、34名が大阪公立大学大学院工学研究科電子物理系専攻・博士前期課程に進学しました。大学院では24名が電子情報系専攻・前期博士課程を修了し、全員が就職しました。

大阪公立大学の発足に伴い、電子・物理工学科は大阪府立大学の電子物理工学科と統合して「大阪公立大学工学部電子物理工学科」として新たなスタートを切りました。その際、電気情報工学科から仕幸英治教授を迎えました。

新生電子物理工学科の定員は１学年108名であり、従来の電子・物理工学科の2.5倍強の規模となりました。教育体制を強化するために新学科内に「電子物性コース」「電子材料コース」の２コースを設けました。今後、両コースで連携し、電子物理工学の両輪をなす電子物性と電子材料のそれぞれに重きを置く教育課程と、これらに共通する内容の教育課程を実施します。以上の取り組みにより、電子物理工学という今後ますます重要となる学術分野を牽引する人材育成を量、質の両面で充実させ、社会のニーズに応えて参ります。

卒業生の皆様のご健勝・ご活躍を祈念しますとともに、新たな歩みを始めました電子物理工学科へのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

電気情報工学科の近況

電気情報工学科　学科長
仕幸　英治

卒業生の皆様におかれましては平素より学部ならびに学科の運営にご協力、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウィルスの影響は本学にもまだまだ及んでいますが、様々な対応を行いながら教育研究活動を実施しております。

当学科の近況をご報告します。まず、本誌の前号等でもお知らせしたとおり、2022年４月の大阪公立大学開学の際、当学科では大幅な組織変更がありました。当学科ならびに工学研究科電子情報系専攻電気情報工学分野は新組織において、学科については電子物理工学科、電気電子システム工学科、情報工学科（以上は工学部）、および現代システム科学域の３学科（工学部）と１学域に、大学院については工学研究科および情報学研究科の２つの研究科体制になりました。一方、2021年度までに大阪市立大学ならびに大学院に入学した学生に関しては入学時の身分が卒業／修了時まで保証されますので、現在の２年生以上は学部生、大学院生ともに大阪市立大学ならびに大学院の学生のままです。即ち大阪市立大学と大阪公立大学の２つの教育研究体制（カリキュラム、時間割等）が今年度から数年間共存します。組織変更が大掛かりな当学科は統廃合の無い他学科と比べて様々な用務が煩雑になっている印象がございます。市大電気情報工学科の視点からは市大生および当該カリキュラム等をフォローしていく形ですが、ときには新たに始まった公立大学の授業等との連携も重要です。規則の変更にも注意しながら（全体的な規則は公立大方式に準ずる形に変更）教育研究に尽力してまいります。

当学科所属教員21名の大阪公立大学での所属先は次のとおりです（敬称、職階等は省略）：工学部電子物理工学科／工学研究科電子物理系専攻１名（仕幸英治）、工学部電気電子システム工学科／工学研究科電気電子系６名（高橋秀也、田窪朋仁、野口博史、辻岡哲夫、宮崎大介、吉本佳世）、工学部情報工学科／情報学研究科基幹情報学専攻８名（阿多信吾、大野修一、蔡凱、中野賢、中島重義、藤本まなと、上野敦志、トランティホン）、そして、現代システム科学域

／情報学研究科学際情報学専攻６名（安倍広多、石橋勇人、村上晴美、大西克実、永田好克、吉田大介）。各教員とも2022年４月より新たな所属先を基準として研究および教育の一層の発展を目指しつつ、市大電気情報工学科／工学研究科電子情報系専攻の各学生の教育等にも従事しております。教育研究に関するトピックついては各新組織での成果発表、およびプレスリリース等の形に移行し、大阪公立大学名義での情報発信が行われております。

学生の進路に関してご報告します。2022年度当学科卒業予定者48名については、本稿執筆時点では大阪公立大学の大学院入試の全てが終わっておらず、詳細を申し上げられないものの、大阪公立大学の大学院に進学予定の者、他大学の大学院に進学予定の者、および民間企業等へ就職予定の者など様々です。これに関し、2022年夏に行われた大阪公立大学の大学院入試は、大阪公立大学の体制で本格的に臨んだ初めて入試だったこともあり、運営側も受験生側もそれぞれ労力を要しました。一方、2022年度前期博士課程修了予定者35名の進路に関してはほぼ全員が民間企業等に就職予定です。これから社会に巣立つ卒業生および修了生の活躍に教員一同期待しております。

最後に、当学科の再編は同窓会にも影響があり、同窓会の再編も徐々に行われ、新たな体制が構築されることと存じます。当学科の卒業生の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしますと共に、引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

化学バイオ工学科の近況

化学バイオ工学科　学科長
米谷　紀嗣

卒業生の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より化学バイオ工学科に対し様々なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様ご存知のように2022年４月に新大学「大阪公立大学」が開学しました。化学バイオ工学科も名称こそ変更はないものの、教育カリキュラムを大幅に刷新し、化学と生命科学の融合をより高めた新たな学科としてスタートを切りました。４月には記念すべき第１期生として58名の新入生が入学しました。コロナ禍はまだ終息に至っておりませんが、現在、授業は原則として対面で行われており、新入生を含めた学生達は皆、コロナ禍以前のような活気のある大学生活を過ごすことができております。

このような状況下で、化学バイオ工学科では、教授11名、准教授５名、講師３名、特任講師１名、特任助教２名の合計22名の体制で教育・研究活動に励んでいます。2022年８月には辻幸一教授が第71回デンバーX線会議（米国）にてBIRKS賞を受賞されました。その他にも多数の学生達が学会発表等で表彰されており、本学科の教員と学生が国内外で高く評価されていることを大変喜ばしく思っています。

教員の異動としては、まず2022年３月末に南達哉准教授が退職されました。長年にわたる本学科での教育・研究に対するご尽力に対し、心より感謝する次第です。また、2022年10月に田村正純准教授とグスマン特任講師（受け入れ教員は田村准教授）が着任されました。田村准教授は触媒有機化学を専門とされており、今後新たな研究室を運営していただく予定です。

卒業・修了予定者の進路状況については、企業への就職希望者のほぼ全員が内定をいただいています。これも卒業生の皆様が社会において活躍され、本学科の評価を高めていただいている賜物であると感謝しております。

最後になりますが、卒業生の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしますとともに、引き続き、本学科へのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

建築学科の近況

建築学科　学科長
谷口　与史也

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本学科同窓会である建築会を通して格別のご支援を賜りまして厚く感謝申し上げます。

まず2021年度の学部卒業生39名で、内大学院進学21名、ゼネコン２名、ハウスメーカーなど７名、公務員など２名、その他７名です。大学院修了生19名で、内ゼネコン４名、設計事務所７名、設備会社１名、その他５名です。その他は例年以上にばらけた感があり、空港や高速道路の管理会社などが挙げられます。

さて、本年度より新大学の建築学科と建築学分野（都市系専攻）がスタートしました。学部の新入生は35名、大学院の建築学分野には前期課程23名、後期課程に２名（社会人）となっています。この新年度入学試験の実施に際しては初めてのことが多くございました。大きくは後期日程を止めて中期日程を実施したこと。大学院入試を８月に加えて２月にも実施したことです。学部の前期日程は4.9倍で例年通りでした。中期日程は74.8倍となり、その他の学科は８～27倍程度ですので、建築分野を志す学生が一定数存在することを実感しました。新大学のカリキュラムは資格要件の関係で大きく変わっていませんが、全学からの履修生15名程度の初年次ゼミナールを３クラス提供しました。課題解決型の授業で、高校や私立大学では一般的になっていますが、こちらは初めてのことばかりで手探りで終えたところです。ちなみにテーマは「古民家 VS タワーマンション　どちらに住みたい？」、「建築の見方を考えてみる」、「場づくりの実践」です。

他にもお伝えしたいことはございますが紙面の都合もありますので、次に学生の活躍を報告します。

●Ｍ２吉山大雅さんが昨年10月に第16回コロキウム構造形態の解析と創生2021にて入選。

●Ｍ２廣岡志穂さんが本年３月に開催された空気調和・衛生工学会近畿支部学術研究発表会にて奨励賞受賞。

●Ｍ２皆見智之さんが８月に北京で開催された第13回Asia Lighting Conference（アジア照明学会）にて、Student Best Paper Awardを受賞。

●Ｍ２布施和樹さんとＭ２伊藤はるなさんが第12回アーバンデザイン甲子園（主催：日本建築学会近畿支部）にて最優秀受賞。

●Ｍ２布施和樹さん、Ｍ２伊藤はるなさん、Ｍ１渡邊めぐみさんが2040年のライフスタイルが紡ぐまちの姿アイデアコンペ（主催：日本都市計画学会関西支部）にて10選に入選。

●Ｍ２寺田凌真さん、Ｍ２奥野湧太さん、Ｍ１　神田直樹さん、Ｍ１松島瑠奈さんが2040年のライフスタイルが紡ぐまちの姿アイデアコンペ（主催：日本都市計画学会関西支部）にて10選に入選。

学生たちの活躍が頼もしい限りです。

教員の異動について報告します。昨年10月に金子健作講師（建築構造学）と山口陽登講師（建築デザイン）が着任しました。金子講師は東京工業大学からで構造力学を主に担当します。山口講師は卒業生でもあり、設計事務所を主宰しており設計教育を主に担当します。また本年４月には小林祐貴講師が工学部共通分野から建築学分野の所属となり13名体制で運営しています。

末筆になりましたが、コロナ禍で様々なことが大きく変化し、皆均しくストレスを感じておられることとお察しします。くれぐれも健康にご留意いただき、益々のご活躍をお祈りいたします。

都市学科の近況

都市学科　学科長
相馬　明郎

卒業生の皆様方には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から都市学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

一昨年度からの新型コロナウィルスの影響により、期せずして常識を変えるという機運が社会に醸成されつつある中、今年４月から大阪公立大学が発足しました。 我が都市学科は、概ね従来の体制で発足する運びとなりましたが、本学科がこれまで育んできた良き文化と、これからの時代に求められる変化を融合する機会が、教育、研究の両側面において訪れていると確信するところです。

2022年３月には都市学科８期生59名が卒業、大学院前期博士課程32名が修了しました。また、大学院の後期博士課程（都市学講座）では、2019年度は３名の方が博士（工学）の学位を授与されました。さらに、４月には54名の新入生を迎えることができました。入学式も、新入生のみの参加ではあったものの、滞りなく行われました。さらに、今年度から対面での授業実施が基本となり、キャンパスには活気が蘇りつつあります。

2021年度学部卒業生53名の進路は、約60％の32名が大学院前期博士課程に進学し、残りの約40％の21名が社会人となりました。就職先は、公務員が８名（経済産業省１、兵庫県１、大阪府１、大阪市4, 加古川市１）、民間会社が13名（ゼネコン２、建設コンサル１、住宅・不動産２、その他８）です。同じく2021年度大学院前期博士課程修了生41名の就職先は、公務員が６名（大阪市４、堺市１、水資源機構１）、民間企業35名（ゼネコン２、建設コンサル12、インフラ系11、メーカー７、住宅・不動産３）となりました。今年は、鉄道、道路、電力、空港などのインフラ系と、建設コンサルタントに就職する学生が多いという特徴がありました。また、今年度は大阪市８名というのも特徴でした。卒業・修了生は、昨年度に較べれば、テレワークとなっている状況は少ないようではありますが、職場そのものも、昨今のコロナの影響で、仕事のスタイルが変化しているところも多く、従前よりも、職場・社会での人の繋がりを感じられる機会が少なくなってきているようです。卒業生の皆様には、後輩を温かな目で見守り、支援いただければ幸いです。

教員の異動では、2021年９月末に蕭准教授が退職され、10月より九州大学に准教授として着任されました。新天地でのご活躍を期待しております。2022年４月には、空間情報学研究室が新たに設立され、米澤剛（よねざわごう）教授と、杉本賢二（すぎもとけんじ）准教授が着任されました。空間情報と都市の結合から、新しい付加価値を生み出す研究に、今後の活躍が期待されます。また、髙木悠里（たかぎゆうり）先生が講師として着任されました。髙木講師は本学卒業生でもあり、今後の活躍が楽しみです。

結びに、世界に目を向ければ、2022年２月24日に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻は依然として収束せず、新型コロナウィルスの感染も、未だ予断を許さぬ状況ではあります。また、IPCCは20年以内に世界平均気温は1.5度以上に達するとの新たな予測を発表し、その要因は人類活動であることを断言し、温室効果ガス排出削減を早急かつ広範囲に進めていかなければならない気候変動ならぬ気候危機であるとしました。このような内憂外患の中、大阪公立大学が新たに発足し、本学科も変革の中にあります。また、2025年には大阪万博も開催予定です．こうした中、今、求められていることは、自然と共生し、文化を育み、安全・安心な生活を営めるこれからの都市像を“描き”、多様な分野の新結合（イノベーション）によって“創造する”こと、また、その担い手を育むことではないかと思っています。この挑戦の成就には、産官学民に渡る人々との連携が不可欠です。卒業生の皆様におかれましては、今後とも、忌憚のないご指導、ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪市立大学工学部各学科同窓会の近況

「大阪公立大学工学部機械工学科同窓会」正式発足の報告

大阪公立大学機械工学科同窓会　会長　吉田　　稔
（副会長　S52 機械工学科卒）

同窓会だより第37号（2021年12月発行）にて、大阪府立大学（以下、府大といいます）と大阪市立大学（以下、市大といいます）の工学系同窓会関係組織間の協議により大阪公立大学の開学を機に学科別同窓会を新たに発足させるという方針が定められたこと、この方針に従い、府大工学部機械工学科同窓会のご代表と市大工学部同窓会の機械系代表としての小職が中心となって構成した設立準備ワーキンググループの取り組みにより、大阪公立大学工学部機械工学科同窓会は、府大機械工学科同窓会の会員と市大工学部同窓会の機械系（機械工学科および知的材料工学科）会員が合流して発足するとともに、毎年４月に大阪公立大学工学部機械工学科への新入生を新会員として迎えるという概要がまとまったこと、を紹介させていただきました。

その後この同窓会概要は、府大機械工学科同窓会の理事会および市大工学部同窓会の評議員会で承認され、設立準備ワーキンググループでは、大阪公立大学開学に伴う工学部機械工学科の新入生（定員128名）に対する会費（終身会費20,000円）の徴収手続き、同窓会正式発足のための総会開催準備が続けられ、同総会の開催案内は、府大機械工学科同窓会の連絡可能会員約4,000名、および市大工学部同窓会の機械系の連絡可能会員約2,000名に送付させていただきました。

同窓会正式発足のための総会は、2022年７月17日（日）、大阪公立大学中百舌鳥キャンパス内学術交流会館にてリアル開催され、会則案、役員人事案、予算案、事業計画案が無事承認されました。会則案は、すでに開設をしております「大阪公立大学工学部機械工学科同窓会ホームページ」に掲載されております。この会則案は設立準備ワーキンググループで練り上げられたものであり、同窓会の概要をよくご理解いただけると存じます。市大工学部同窓会の機械系会員の皆様には、是非一度、ご確認ください。

今後、大阪公立大学機械工学科同窓会は、会則第２条に定められた「本会は大学との連携交流や会員相互の親睦をはかり、大阪公立大学の発展ならびに工業技術の発展に寄与する」との目的達成のための活動を行っていくことになりますが、当面、2023年３月を目途に会報創刊号（府大機械工学科同窓会会報との合併号を予定）を会員の皆様にお届けする準備を進めるとともに、2022年度中に会員情報の統合を行い、会員の皆様と同窓会との間の連絡がホームページを通じて円滑に行えるインフラを確立したいと考えております。

大阪公立大学工学部機械工学科同窓会は、端緒についたばかりであるとともに、早くとも2025年（令和７年）３月までは存続する府大工学部機械工学科同窓会と市大工学部同窓会が並走するという過渡期にあります。この過渡期を乗り越えてスムースに本格稼働に移れるよう、何卒皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、正式発足のための総会で承認いただきました新役員を紹介させていただきます。

大阪公立大学工学部機械工学科同窓会
初年度（2022年度）役員会（敬称略）

会　長	：吉田　稔	（市大卒、弁理士）
副会長	：菊田久雄	（府大卒、工学研究科教授中百舌鳥C）
	：脇本辰郎	（市大卒、工学研究科教授杉本C）
専務理事	：石原正行	（府大卒、工学研究科教授中百舌鳥C）
	：伊與田浩志	（市大卒、工学研究科教授杉本C）
庶務理事	：黒木智之	（府大卒、工学研究科准教授中百舌鳥C）
	：桑田祐丞	（府大卒、工学研究科准教授中百舌鳥C）
会計理事	：水谷彰夫	（府大卒、工学研究科講師中百舌鳥C）
	：伊與田浩志	（専務理事と併任）
常務理事	：藤田勝久	（府大卒、府大機械工学科同窓会元会長）
監　事	：吉永洋一	（府大卒、府大機械工学科同窓会前会長）

大阪公立大学電気系同窓会の設立と近況

大阪公立大学電気系同窓会理事　岩橋　正義
（副会長　S47年電気工学科卒）

１．電気系同窓会が正式に発足！

昨年（令和３年）は、新しい工学部の同窓会は学科別同窓会とすること、電気系学科は一つにまとまるという方針のもと、大阪府立大学の電気系同窓会である中百舌鳥電気クラブ（ＮＤＣ）と市大工学部同窓会の電気系学科に所属する役員とでワーキンググループを立上げ、準備を進めてきました。ワーキンググループの会合は10回に及び、会則案・役員案・事業計画案・予算案を策定致しました。

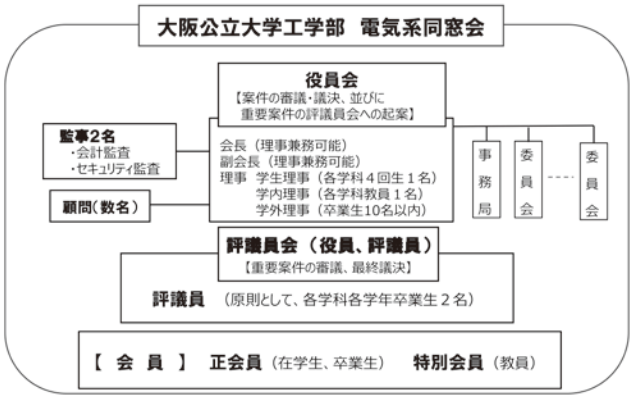
５月24日に役員候補者等からなる設立準備会を立上げ、会則を含む「電気系同窓会設立議案書」を取りまとめ、市大工学部同窓会の電気系評議員と府大NDCの幹事（評議員に相当）の方々に新同窓会の評議員への就任及び設立議案書の審議を依頼することとしました。郵送による審議の結果、回答のあった118名全員から賛成をいただきました。これを受けて、７月29日に役員会を開催し、電気系同窓会が正式に発足したことを確認致しました。

なお、今年度の新入生を迎えるに際し、大阪公立大学校友会のホームページに新同窓会の主旨や会則等を掲載して本会の活動を理解してもらうと同時に入会の案内を致しました。現時点で163名の新入生の方々に入会していただいております。

２．電気系同窓会の概要

本会の会員は、対象となる市大・府大の電気系学科の卒業生・教員及び学生です。新同窓会では、教員及び現役の学生も会員となり卒業生と一体となった活動を目指します。対象学科は、大阪公立大学工学部では電子物理工学科・情報工学科・電気電子システム工学科の３学科及び大学院の電気系専攻となります。また、市大及び府大の電気関係学科（電気/電子・応物・情報系の学科）の卒業生が会員となります。会員数は約8000名となります。

本会は役員会と評議員会で構成され、役員会は会の運営を担い、重要案件については役員会で起案し評議員会で最終的に議決されます。



３．現在の活動状況と課題

ホームページ（HP）は、会の活動をいち早く皆さんにお知らせすることと会員同士が交流する場として重要な役割があります。HP開設は本年度の電気系同窓会の重要な事業の一つであり、ＨＰ委員会を設置して準備を進めています。ホームページのURLは以下の予定です。現在工事中で保護がかかっていますが、12月末までにはオープン予定です。会則や役員、事業概要、大学の情報などが掲載されますので是非このサイトを見て下さい。

https://www.web-dousoukai.com/omu-elec/

また、HPは情報を皆さんに伝える非常に有効な手段ですが、これを見に来てもらわないと意味がありません。その為に会報誌を編纂して会員の皆さんに配布し、本同窓会の発足を含む重要ニュースとHPのURL等をお知らせる予定です。また、会員データベースの作成を進めていきます。従来は会員のメールアドレスを把握していませんでしたが、今後は情報発信の効率化と迅速化のためにメールを活用していきますので、新たに開設するHPで皆さんのメールアドレスの登録をお願いいたします。

電気系同窓会が発足したといっても未だ形ができたにすぎません。真に市大・府大が一体となった同窓会を築くには、違う歴史を持つ会員同士がより深く交流し互いの良さを持ち寄り意義ある活動をしていく必要があります。皆さんの協力と積極的なご参加をお願いします。

化学バイオ工学科同窓会の近況

大阪公立大学化学バイオ工学科同窓会会長　神門　　登
（副会長　S45年応用化学科卒）

１．設立に至る経緯

2022年４月から大阪公立大学がスタートしましたが、市大・府大の工学系同窓会関係者での協議を踏まえ、各学科の特徴を生かした「学科別同窓会」も活動を進めていくことになりました。しかしながら　化学バイオ工学科には受け皿となる同窓会組織がありません。そこで2021年６月に化学バイオ系理事６名と化学バイオ工学科教員２名で、「化学バイオ工学科同窓会設立委員会」を発足させ、協議を行ってまいりました。

その結果　2022年２月に化学バイオ系評議員による設立評議員会を開催し、「大阪市立大学工学部化学バイオ工学科同窓会」の設立、並びに　2022年４月１日付けで「大阪公立大学工学部化学バイオ工学科同窓会」に名称変更する旨が承認されました。

２．会則について

本会は、会員相互の親睦を図るとともに、大阪公立大学、大阪公立大学工学部及び化学バイオ工学科の運営を支援し発展に寄与する事を目的とする。

本会はその目的を達するために、同窓生間の親睦を図る事業、大学、工学部及び化学バイオ工学科の運営を支援する事業、会員情報の管理及び個人情報の保護、その他、本会の目的を達するために必要な事業等を行う。

本会は正会員（卒業生、修了生）、準会員（在学生）、特別会員（旧教員及び教員）の各会員をもって構成する。準会員は大阪市立大学化学バイオ工学科の在学生および大阪市立大学大学院化学生物系専攻に在学する院生を含む。

本会の運営のため、役員会、理事会、評議員会を置く。

本会に名誉会長、会長、副会長、会計、監事等を置く。

３．会員数について

本会の会員数は2021年７月現在　約3,000名、連絡可能な会員は2,000名弱です。評議員は155名、理事・監事合わせて12名です。

４．2022年度事業計画（2022年４月１日～2023年３月31日）について

本年度は、１）評議員会、理事会の開催、２）会員相互の親睦を図る事業、３）大学、工学部および化学バイオ工学科の運営を支援する事業、４）広報事業、５）会員情報の管理等を計画しています。

設立１年目の「基盤づくり」として、理事会の開催、情報交流の手段としてホームページの開設、会員情報の整備（メールアドレス含む）、在学生を対象とした卒業生による講演会の開催に注力しています。

特にホームページの活用は、迅速な情報交流と経費低減の観点から大きな課題と考えています。

５．2022年度予算（会計年度　2022年４月１日から2023年３月31日）について

収入は新入生からの終身会費、主たる支出はホームページ開設費用、交流会費用、会員情報整備等です。

６．最後に

化学バイオ工学科は、新大学が掲げる理念のもと、益々成長・発展していくものと確信しています。多くの同窓生も化学バイオ工学科への支援を惜しまないことでしょう。

従来　化学バイオ工学科では学生・教員・卒業生の相互交流はあまり活発ではなかったと思います。
本会の発足により、今後様々な形態で「交流の機会」を提供できるものと考えています。

新しい同窓会の歴史をご一緒に作っていきましょう。

会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

建築会は創立60周年を迎えました

大阪公立大学・大阪市立大学建築会会長　福島　眞一
（S48建築学科卒）

建築会は2021年４月に創立60周年を迎えました。大阪市立大学が発足（1949年４月）してから12年目に創立しました。創立当時の先輩方は建築学科の発展と充実に大きな情熱を持って関わられました。それを引き継いだ先輩方も建築会の発展に大いに貢献され、今に引き継がれてきています。

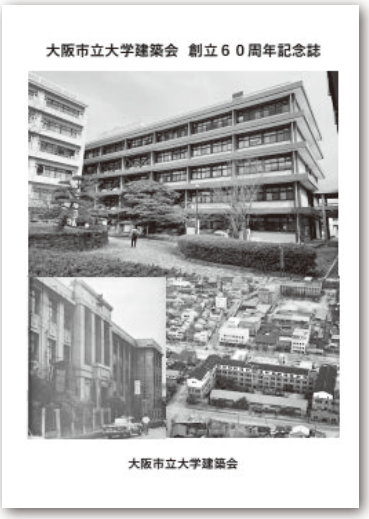
2022年４月に大阪市立大学は大阪府立大学と統合され、大阪公立大学になりました。大学名も変わるこの機会に、建築会の来歴を振り返り、活動記録を残すと共に、未来に向けた糧とするために、建築会創立60周年記念事業を実施しました。記念事業として、記念大会の開催、記念誌の発行、寄付金の募集、寄付金の一部を基金（学生活動支援のための基金）とした現役学生への活動支援を行いました。

記念大会は、昨年（2021年11月27日）に杉本キャンパスの大阪市立大学学術情報総合センター　文化交流室で開催されました。現地の会場に28名、On lineで20名、合計48名の参加でおおいに盛り上がりました。駒元会長と西川前会長への感謝状の贈呈、令和３年度幹事総会の結果報告、記念事業の中間報告を行った後、６期内藤徹男さんの講演～建築会発足に先立つ“大阪市立大学建築学科黎明期を過ごして”～がありました。 内容が深く大変面白い講演でした。

講演を抜粋します。“当時は工学部ではなく理工学部で、梅田から東へ600mほど行った扇町公園の手前にありました。敗戦後のまだまだ貧しい時代でしたが、経済成長の波に乗って、大阪の街は雑然としながらも、生気に満ちていました。いたる所で区画整理やインフラ整備をやっていて、騒音はすごいし、車のクラクションは鳴りっぱなし、埃は舞い上がっていて、テレビで見る発展途上国の風景と同じですが、なぜか私にはその環境が新鮮に見えて、心はウキウキ、経験することすべてが楽しかったのです。”と言う扇町時代から、先生方の話や、卒業してから関わったNHK放送センター、霞が関ビル、京王プラザホテルの設計の話が続きました。“充実した市大生活６年間を、諸先生、先輩後輩達の中で過ごせたことに、心底から感謝しています。特に浅野、鈴木、中澤先生、お三方の「社会に出てしまったら学べないものを、しっかり勉強して行きなさい。」という明確なご方針のもとに学んだこと、そのすべてが実社会で役立ったではありませんか。”と、結ばれていました。

記念誌は2022年８月に発行されました。181ページ有り、内容のある読み応えのある記念誌が出来上がりました。寄付金も目標額を上回ることが出来ました。寄付金の一部で学生活動支援基金を設立しました。2022年６月に審査会を開催し、２グループへの支援が決定いたしました。現役学生への支援を続けていくことで、卒業生と現役学生が近づき繋がって行ければと思っています。

令和４年度（2022年度）も、建築会大会・見学会を11月５日に開催します。大会を開催してから、大阪中之島美



60周年記念誌

60周年記念大会　集合写真　2021年11月27日

術館を見学する予定です。大阪市役所でこのプロジェクトを担当した洞正彦氏（41期）と設計者の遠藤克彦氏の解説があります。今年は、新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきていることも有り、久しぶりの懇親会も開催する予定です。

建築会の名称も、“大阪市立大学　建築会”から“大阪公立大学・大阪市立大学　建築会”に変わりました。工学部も、数年後には杉本町から中百舌鳥に移転すると聞いています。建築会は大学の名称が変っても、キャンパスが移転しても、これからも建築学科への支援と現役学生への支援を続けて参ります。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

都市会の近況報告

大阪公立大学都市会会長　藪内　　弘
（S56土木工学科卒）

都市会は、2014年（平成26年）に旧土木会、旧環境都市同窓会、旧都市会が合併して「都市会」が発足して、今年で９年目を迎えました。会員数は、正会員2563名、特別会員153名、学生会員314名の合計3030名です。

都市会活動を支えるため「学年代表委員84名」「職場代表幹事20社20名」制度を組織しています。

特に、昨今都市学科への女子入学者が増え、都市会も約200名の女性会員が在籍します。令和２年度に「都市会女性の会（矢野会長）」が発足し活動を開始しました。

https://ocuurbanjosei-web-3.jimdosite.com

会員の皆様には、年会費として３千円を負担して頂いており、毎年「都市会報」を発行する他、都市会活動を実施するため、事務局の運営を行なっています。なお、今年度名称を「大阪公立大学工学部都市会」に変更しました。

昨年10月以降行った主な行事としては、

〇東京支部総会（川満支部長）の開催：土木の日（11月18日）の週末金曜日に東京支部総会を毎年開催しています。対象は東京周辺に在住する会員で、今回は住吉都市会会長、橋梁研究室元教授大内様をお迎えし16名が参加致しました。

〇年末講演会：コロナ禍にめげず毎年開催しており、Ｒ３年11月27日に①地盤研究室の大島教授による「地盤調査一斉試験と大阪地盤のモデル化」②工学部黒山事務局長による「大阪公立大学発足に伴う新工学部同窓会について」を本学文化交流センターで開催致しました。

〇市土会ゴルフコンペ：Ｒ３年11月30日に聖丘カントリークラブで開催、参加人数は毎年減少し９名でした。今年から「都市会ゴルフコンペ」に名称変更致しました。

〇学生の就職支援：Ｒ３年11月25日～Ｒ４年１月14日の間３回、都市学科主催の「業界説明会」「合同企業OB/OG説明会」の後、学生と卒業生との懇親会を予定していましたが、コロナのため中止しました。

〇現場見学会：学生の工事現場見学への支援を行なっています。今年は８月に新名神高速道路現場見学を予定していましたが、残念ながら中止となりました。

また、都市会の組織運営としては

〇役員会：年間３回程度開催し「年間行事」「会報掲載記事」「都市会運営」等について意見交換・審議しています。

〇総会：例年総会・懇親会を開催し予算、決算、役員、規約改正等の審議を行っていますが、コロナ感染対策のため、昨年に続き今年も電子（郵便）総会に変更し、メール等で実施しました。

〇都市会ホームページ：http://ocu-toshi.com

行事案内、電子名簿、新聞雑誌等に掲載された会員活動記事紹介、おくやみ情報等を更新して会員に提供しています。

〇都市会報等：大学、会員間の情報交換のため、毎年、都市会報を発行しています。７月に発行した第９号では「都市学科の近況、各研究室の活動状況」「新任・退職教員挨拶」「就職ガイダンスの詳細」「全国の大学等で活躍する卒業生の紹介」「海外で活躍する卒業生」「10年ひと昔で強める同期の絆-卒業後10年毎の卒業生が寄稿」等を掲載し、学生を含む2600名の会員に送付致しました。特に、昨年度は平成26年以来発行していなかった「卒業生名簿」を発行することができました。

なお、私は、令和４年度から住吉正信様に代わり都市会会長に就任致しました。コロナ禍のため都市会活動も、この間制限されてきましたが、徐々に通常に戻しながら、WEBなど積極的に活用して、さらに会員にとって有意義な都市会にしていきたいと思っています。工学部同窓会の皆様にもご支援賜りますようお願い申し上げます。

事務局便り

評議員会報告

2022年の評議員会については２月26日に開催したが新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンラインで実施した。なお、郵送による決議も併用した。

議　　案
①2021年度(第25期初年度)事業報告
②2021年度収支決算及び会計監査報告
③2022年度(第25期２年度)理事・役員案
④2022年度事業計画案
⑤2022年度予算案
⑥その他

議案書抜粋

①第25期第１年度（2021年１月～12月）収支決算書

経常費　　(単位円)

収入 項目	予算額（イ）	決算額（ロ）	支出 項目	予算額（イ）	決算額（ロ）
終身会費	5,250,000	5,100,000	会議費	160,000	117,784
貯金利息	1,000	31	行事費	200,000	82,500
経常寄付	459,000	190,500	交流・懇親行事費	0	0
「COVID-19困窮工学生支援制度」支援金	800,000	793,297	広報費	2,000,000	2,462,623
(小　計)	6,510,000	6,083,828	会員データ管理費	200,000	187,000
前期より繰越金	6,865,792	6,865,792	協賛費	1,000,000	844,850
			渉外費	10,000	0
			事務局費	2,000,000	1,755,740
			通信費	100,000	65,097
			事務費	150,000	122,094
			備品費	10,000	162,470
			会費徴収費	30,000	30,584
			予備費	10,000	0
			特別基金へ振替	2,000,000	1,931,091
			(小　計)	7,870,000	7,761,833
			(年収支差額・当年度剰余金)	△1,360,000	△1,678,005
			次期への繰越金	5,505,792	5,187,787
合　計	13,375,792	12,949,620	合　計	13,375,792	12,949,620

②第25期第２年度（2022年度1月～12月）理事・役員

会　長：斉藤壽士（物44）
副会長：吉田　稔（機52）　岩橋正義（電47）
　　神門　登（化45）　日野泰雄（土50）
　　宇野勝久（建49）
会　計：黒山泰弘（土50）
理　事：宮本万功（機43）　笠上文男（機50）
　　瀧山　武（機59）　中谷隼人（知材H16）
　　行藤三男（電36）　南　繁行（電45）
　　木村雅之（電51）　西野修三（電57）
　　村治雅文（電62）　西　邦夫（電H13）
　　山田文一郎（化修40）　三浦洋三（化42）
　　西口克彦（化43）　安田　裕（化48）
　　大嶋　寛（化49）　浅井真一（土48）
　　廣瀬彰則（土54）　大島昭彦（土55）
　　東　安彦（土57）　上林恭子（土H５）
　　坂　壽二（建42）　太田隆司（建55）
　　小西浩夫（建56）　谷口徹郎（建59）
　　柳川重昌（物44）　山本　孝（物45）
　　安木正志（物55）　大前秀治（物56）
監　事：志野 太一（物40）　高桑久茂（電46）

③第25期第２年度（2022年１月～12月）事業計画

①会報の発行
②大学行事･事業への協力
③評議員会、理事会の開催
④会員相互の親睦･交流の促進
⑤特別基金の運用
⑥新準会員数ならびに終身会費の払込状況
⑦奨学金の貸与（事前予約型奨学金）
⑧経常寄付および「COVID－19困窮OCU工学生支援制度」への寄付入金状況および大学への寄付
⑨現同窓会の在り方検討
⑩新大学における同窓会の在り方検討

④第25期第２年度（2022年1月～12月）経常費予算　　(単位円)

収入 項目	予算額	支出 項目	予算額
終身会費	300,000	会議費	120,000
貯金利息	1,000	行事費	0
経常寄付	500,000	広報費	1,500,000
(年 合 計)	801,000	会員データ管理費	187,000
前期繰越金	5,187,787	協賛費	0
		渉外費	0
		事務局費	1,200,000
		通信費	50,000
		事務費	100,000
		備品費	10,000
		会費徴収費	2,000
		予備費	1,000,000
		(年合計)	4,169,000
		次期への繰越金	1,819,787
総　合　計	5,988,787	総　合　計	5,988,787

新評議員紹介（2022年3月卒業生）

機械工学科	木村　凌
電子・物理工学科	水谷菜々子　山野　航暉
電気情報工学科	奥野　文弥　山城　遥暉
化学バイオ工学科	戸田　佳歩　宮崎　達夢
建築学科	守岡　大輔　渡邊めぐみ
都市学科	高岡ふみか　松本　采華

第34回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠にありがとうございます。

さて、第34回評議員会を2023年２月25日（土）に開催を予定しています。なお、オンライン併用とする予定です。ただ、新型コロナウイルス感染症の状況により、別の手法（郵送等）に変更する可能性があります。

詳細は後日ご連絡しますのでよろしくお願いいたします。

理事会報告

第25期第４回理事会

日　　時	2021年11月15日午後5時30分から
場　　所	オンラインで開催
参加理事数	14名
主な議題	①同窓会便りの編集内容（報告） ②新大学校友会（全学同窓会組織）での検討状況（報告） ③新大学での工学部同窓会に向けた協議状況について（報告） ④評議員会開催について（審議） ⑤その他

第25期第５回理事会

日　　時	2022年2月2日午後5時30分から
場　　所	オンラインで開催
参加理事数	22名（委任状提出を含む）
主な議題	①評議員会の開催方法について（審議） ②評議員会議案書について（審議） ③その他

第25期第６回理事会

日　　時	2022年5月20日午後5時30分から
場　　所	オンラインで開催
参加理事数	10名
主な議題	①工学部同窓会事業計画について（審議） ②新大学学科同窓会との関係について（報告） ③その他

第25期第７回理事会

日　　時	2022年8月29日午後5時30分から
場　　所	オンラインで開催
参加理事数	21名（委任状提出を含む）
主な議題	①新大学学科同窓会との関係について（報告） ②同窓会だよりの発行について（審議） ③ホームカミングデーの開催について（報告） ④その他

工学部同窓会の経常的活動費としてご寄付いただいた方

（2022年１月１日～2022年11月30日、43名、合計539,000円。太い数字は金額　単位：千円）

大西史人（土木S60）	5	野田忠男（応物S45）	5	谷浦　茂（電気S52）	10	池田博英（機械S53）	10
古川　浄（機械S58）	10	平野忠良（機械S41）	10	浅原浩介（応物S38）	10	伊勢博幸（建築S54）	5
丹下俊彦（土木H15）	10	坂根正弘（機械S38）	100	太田隆司（建築S55）	10	奥野　勝（応化修S42）	20
濱田　明（電気S54）	10	吉田　稔（機械S52）	10	近藤信勝（機械S29）	20	山本修章（土木S47）	5
井口　孝（建築H2）	10	横山幹彦（応化S43）	10	日下真哉（環都H25）	2	三浦洋二（応化S42）	5
髙橋健二（土木S53）	5	四方時夫（電気S40）	10	三品文雄（土木S50）	10	柳川重昌（応物S44）	10
中村博信（応化S47）	3	古川　浩（土木S54）	10	田島敏司（電気S40）	5	幸田武知（応物S53）	10
小山正治（電気S45）	10	安原喜之（応化S42）	10	西　正實（機械S53）	100	竹中利雄（化学S34）	3
森本幹雄（機械S42）	5	杉本　弘（応物S37）	1	中村恭三（建築S39）	10	田中三郎（建築S53）	10
東　和司（土木S45）	10	天野健次（土木H1）	10	栗根克昶（応物S35）	10	鈴木大介（電情H29）	5
岡山保美（応物S48）	5	岩田賢造（電気S34）	5	板倉啓裕（応化修S42）	5	斉藤寿士（応物S44）	10

編集後記

同窓会だより第38号をお届けします。

今年の４月から、大阪市立大学と大阪府立大学が統合された大阪公立大学が、第１期入学生を迎えてスタートしました。同窓会だより38号の発行にあたり、ご寄稿頂きました大阪公立大学工学部長・工学研究科長の綿野教授をはじめ、工学部各学科主任の教授の先生方、工学部学科同窓会の会長の皆様に感謝申し上げます。

工学部同窓会とは別に、これまで学科同窓会として活動してきた都市会と建築会以外に３つの学科同窓会が新たに設立されました。大阪公立大学機械工学科同窓会が令和４年７月17日に設立、大阪市立大学工学部化学バイオ工学科同窓会が令和４年２月に設立され令和４年４月１日に大阪公立大学化学バイオ工学科同窓会に名称変更、大阪公立大学電気系学科同窓会が令和４年７月29日に設立され活動を開始しました。

今後工学部の各学科において、2023年度末に電子物理工学科、機械工学科および電気情報工学科の３学科が中百舌鳥キャンパスへ移転、2026年度末には、化学バイオ工学科、建築学科および都市学科が中百舌鳥キャンパスへ移転する予定になっています。

今後は、各学科別同窓会が同窓会活動の中心になりますが、工学部同窓会としては、これらの学科同窓会の活動を工学部という組織体の統括調整役として役割を果たしていくことを期待します。

編集委員長　宇野　勝久（昭和49年建築学科卒）

工学部同窓会員連絡先調査への
ご協力のお願い

同窓会員の皆様には毎年12月に「同窓会だより」をお送りします。しかし、毎年、発送分が多く返送されてきます。

つきましては、転居の際には学科（専攻）名、卒業（修了）年、氏名、郵便番号、連絡先（現住所）を葉書、メール、または以下の同窓会ホームページの「連絡先変更依頼」よりご連絡ください。また、クラスメートに「同窓会だより」が届いていない方がおられたら、送付先を同窓会事務局に連絡するようお伝えください。

工学部同窓会ホームページ：http://kougakubu.osaka-cu.net/

〈同窓会事務局連絡先〉
住所：〒558-8585　大阪市住吉区杉本３－３－138
電話：06－6607－8373
Fax：06－6605－2769
メールアドレス：dousoukai.eng.ocu@gmail.com